

科目ナンバリング		U-LAS30 10029 SJ11										
授業科目名 <英訳>		情報AI基礎演習 [文学部] Practice in Basics of Informatics and AI (Faculty of Letters)					担当者所属 職名・氏名		文学研究科 助教 徐 勤			
群		情報学科目群			分野(分類) (基礎)			使用言語		日本語		
旧群		B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期		2026・前期		曜時限	月1/水1			配当学年	全回生	対象学生	文系向	
[授業の概要・目的]												
大学での学びや社会的活動、また卒業後の大学院や社会における知的活動にとって必須である、情報検索、情報の表現・視覚化などの情報利活用の能力（情報リテラシー）と、情報機器の操作能力とその仕組みについての知識（コンピュータリテラシー）を修得する。また、現代社会において、情報の収集や発信を行う際を守るべき社会的ルール、マナー、倫理に関する最低限の知識を修得する。さらに、近年の生成AIをはじめとする情報技術の急速な発展を踏まえ、学術活動や社会生活においてAIを有効かつ適切に活用するための基礎的な知識とリテラシーを身につける。具体的には、実習を通じて、大学における情報ツールの使い方、各種アプリケーションの操作法を学びながら、情報の検索、得られた情報の表現法を身に付けるとともに、AIの概要とその利用に関する一般的な注意事項、ネットワークにおける社会的マナー、および情報技術の仕組みを理解していく。 高校の「情報I」レベルのスキルを持ち、コンピュータと主要なアプリケーションの基本的操作を一定程度身につけた学生を対象とするが、まったくのパソコン初心者やパソコンが苦手な学生も対象とする。												
[到達目標]												
・学内の情報サービスとネットワークを活用できるようになる。 ・大学における学修、研究において、そのために情報技術をどのように利用すればよいかが分かる。 ・パソコンとそのOS、それに接続する外部機器の仕組みを通常利用することができる程度に理解する。 ・コンピュータを利用して、各種書類作成やプレゼンテーション資料などを作成できる。単なる操作手順の暗記として行うのではなく、なぜそのような動作をすることになるのかを理解した上で行える。 ・学修に必要な情報を的確に検索できる。大学図書館が提供している情報源を利用できる。 ・情報社会の一員として相応しいマナーや倫理を守った形で、ネットワークサービスおよび生成AIを含む情報技術を適切に利用できる。												
[授業計画と内容]												
授業回数はフィードバックを含め全15回とする。 主に以下の内容を予定しているが、学習の理解度によっては取り扱う項目に変更が生じる場合もある。また、おおよそ1回のテーマで1週の授業を予定しているが、内容によっては2、3週にわたる場合もある。 第1回 イン트로ダクション、アンケート 第2回 情報倫理 第3回 ネットワークの仕組み 第4回 コンピュータのハードウェアと OS の仕組み 第5、6回 Microsoft Word 第7、8回 Microsoft Excel												
-----情報AI基礎演習 [文学部] (2)へ続く↓↓↓												

情報AI基礎演習〔文学部〕(2)

第9回 情報探索と図書館の利用（協力：文学研究科図書館職員）

第10回 AIの基礎と活用上の留意点

第11回 Microsoft PowerPoint

第12、13回 ウェブサイトの作成(HTML, CSS)

第14回 他のアプリケーションやOS、生成AIツールの活用例

第15回 フィードバック

コンピュータの基本的な使い方は一定程度理解していることを前提とするが、授業での説明は極力、仕組みや構成から丁寧に行っていく。

フィードバックについて：フィードバック時間に、LMSで課題の解説を提示する。メール等での質問も受け付ける。

〔履修要件〕

特になし

〔成績評価の方法・観点〕

成績評価は、「平常点（出席と参加の状況）」（約30%）と「課題点」（約70%）との総合評価によって行う。

・課題は全体で6回程度課す。

〔教科書〕

市販の特定の教科書は使用せず、演習内容についてはウェブサイトにて公開する。

〔参考書等〕

（参考書）

参考となる書籍やウェブサイトについては、演習中あるいは演習用のウェブサイトにて紹介する。

（関連URL）

<https://joho.bun.kyoto-u.ac.jp/>(本演習専用のウェブサイト)

〔授業外学修（予習・復習）等〕

・演習前の予習については、必要となる場合にはあらかじめ指示する。
・演習後の復習が最も重要となる。実質的には、毎回のテーマに沿う形で課題を出す、1回の課題作成のために平均して2時間程度は作業が必要になる。

〔その他（オフィスアワー等）〕

・コンピュータを利用した実習を行うため、一コマの授業の受講者数に限りがある。したがって、文学部の学生を優先して人数制限を実施する。
・情報環境機構が提供する情報セキュリティe-Learningを必ず受講し、修了テストを受けた上で、同テストのフィードバックを確認しておくこと。授業内では受講のための時間は設けないので授業時間外に受講しておくこと。同e-Learningは学生も含めた本学の全構成員に対して毎年受講が求められているものである。2回生以上で過去の年度に受講した場合でも今年度まだ受講していないのであれば必ず受講すること。

〔主要授業科目（学部・学科名）〕